理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

県教研参加報告

印南小　古谷　成司
根郷小　平山　英輝

第四十五次県教研成田集会に、印旛支部を代表して参加させていただきました。

理科教育の小学校分散会では、一、よくわかり、児童が意欲を持って取り組む理科指導は、どうあるべきか。二、地域の自然をふまえた正しい自然観を育てる理科教育は、どうあるべきか。という二つの研究主題のもと、各支部からの提案と、それについての討議がもたれました。討議は、一、子供の興味・関心・意欲を高める理科指導のあり方。二、科学的な見方や考え方を養う理科指導のあり方。三、地域の自然を生かした理科指導のあり方の三つを柱として、行われました。

私たちの提案「自然への感性を豊かにし、学ぶ力を育てる理科学習はどうあるべきか」－自然事象への関わりを重視した環境教育への取り組みは、地域の自然を教材化していくことで、豊かな感性が育ち、自然と人間との共存関係の大切さに気づく児童を育てることとなるだろう、との助言をいただきました。また、昨年の全国教研でも身近な自然の教材化について討議がなされたそうです。

今後も、地域の自然に視点を当て、教材研究や授業実践を通して研究を深めていきたいと考えています。

他支部からの提案では、物理領域、特に「ものの動き」の学習を通しての提案が多くありました。

ここでは、教材開発が研究の中心であり、その活用についてが提案されました。

六年の「体のつくりと働き」の学習を通しての提案では、呼吸と血液の関係に目を向け、血液への酸素のとけ込む様子を、直接確かめることのできる教材を開発し、活用していました。

具体的には、牛の血液を使い、酸素や二酸化炭素をとけ込ませ、血液の色の変化を調べるという内容でした。

また、夷隅支部からは、五年「メダカの成長」の学習の中で、メダカだけでなく、近くで捕獲できるクサフグを活用した学習についての提案がなされました。

身近な自然に積極的に飛び込んでいく児童の姿が、よく伝わる提案内容でした。

全体を通して感じたことは、一、発表方法について、各支部とも工夫がされていました。

ビデオやスライドなどの視聴覚機器を上手に活用し、児童の活動の様子がよくわかりました。

二、提案時間が決まっているため時間内での発表の構成について、よく検討されていました。

教材研究、指導方法、提案の工夫などたくさんのことが、大変勉強になりました。

このような機会を与えて下さった、理科研究部の皆様に、この場を借りて、御礼申し上げたいと思います。二日間どうもありがとうございました。

関ブロ報告

臼井小（現在　佐倉市教委）
沼田　正信

私は、二日目の三山小学校会場に参加させていただきました。研究主題「一人一人が生き生きと活動する学習をめざして」ということで、生活科・理科を通して、めざす子ども像を「自分の計画にそってすすんで学習する子ども」と設定し研究が進められていました。生活科では、自然、地域からの素材をさがし、素材を使ってのゲーム、計画をたてさせて学習を進めていました。中学年理科では、導入時にひとつの学習問題をみつけその問題解決の場面で次の学習問題をみつけ学習を進めていく方法高学年理科では導入時に単元全体を見通す学習問題を見つけ単元構成を子どもが教師といっしょに考えていく形をとっていました。

また、午後からの研究発表では環境教育の分科会に参加させていただきました。印旛から根郷小学校の梅里先生や新潟から来られた石部先生のスライドを交えながらの迫力ある提案に、理科における環境教育の重要さを再認識しました。講評で講師の田中先生から、理科はクロスカリキュラムの中心になり得る教科である。とのご指導があり、今後の学習指導計画をたてる上で考えていかなければならない問題であると思いました。

他にもたくさんのことを学ばせていただいたこの大会、運営された先生方にこの場をかりて感謝したいと思います。

＜私の教育実践＞

主体的に学習する子どもの育成
―理科におけるティーム・ティーチング―

内郷小（現在　佐倉東小）
能見　佳三郎

一．はじめに

小学校学習指導要領によれば、学校の教育活動を進めるに当たっては、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と示されている。

これを受けて、本校では、生活科・理科におけるティーム・ティーチングを通して、「主体的に学習する子どもの育成をめざして」研究を進め、個を生かし、子どものよさや可能性を生かす個性化教育に取り組んできた。

そして、これまでの教師主導型の授業を見直し、新しい学力観に基づいた学習活動を展開してきた。

二．学年ティーム・ティーチング

個を生かし、子どものよさや可能性を生かす学習活動を行う一手段として、ティーム・ティーチングを行った。本校は、各学年二学級ずつの十二学級であり、ティーム・ティーチングのための加配教員は特別にはいない。したがって、ティーム・ティーチングはすべて学年ティームが中心である。

学年ティーム・ティーチングとは、学年で学級の壁を越えてグループを作ったり、自分のやりたい学習を選んで活動したりする。それぞれに対して、二人の教師が役割を分担して、児童の活動を支援していくものである。

三．学習課題に応じたティーム・ティーチング

本校におけるティーム・ティーチングの形態としては、理科においては、主に学習課題に応じたティーム・ティーチングを行っている。オリエンテーションや一斉学習の後に、いくつかの課題の中から取り組みたい課題を選んだり、自分で設定していく学習活動を進めていく。すなわち、児童が自分の考えを生かし、興味や関心に応じて自由に選択できるような複線的な学習過程を組んでいくものである。

四．六年理科の実践例

①単元名　ものの燃え方と空気
②内容と方法

本単元の導入でオリエンテーションを行うことによって、学習のめあてをはっきりとらえさせ、これからの学習活動に興味がもてるようにした。そして、児童の実態をもとにして、物が燃えるときの物と空気の変化について調べる活動を行った。その際、自分の調べてみたいコースから順序を選択し自由に試行する活動を行った。その活動をもとに、不思議に思うことや疑問に思うことを整理し、自分の学習問題を見つけ、学習計画を立てる。それをもとにして、コース順序選択学習により、自分の最も興味関心のある学習から選び実験方法を考え、実験をして確かめていった。また、自分の考えをはっきりさせるため、学習計画表やワークシートを活用し、学習の定着をはかるために、確かめカードを活用していった。

五．おわりに

ティーム・ティーチングを取り入れたことによって教師主導の「教える授業」から児童主体の「自ら学ぶ学習」への発想の転換を図ることができ、自ら学ぶ意欲、思考力、判断力などを身につけた児童の姿が見られるようになった。

しかし、情報を収集し分析していく能力や児童自らが学習をまとめていく表現力については、まだ不足していることが明らかになってきたので、今後の課題として、更に実践を重ねていきたい。

会報の発行が，おくれ関係者の皆様にご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。前幹事　深山